



SPRING
2007
Vol.25

Nagakute Cultural Center Information Magazine

長久手町文化の家 情報誌



この情報誌では文化の家が行なう事業や文化の家で展開されるさまざまな活動を紹介するとともに町の芸術文化情報をお知らせします。

CONTENTS

○ 特集	2
文化の家とかかわる劇作家たち	
○ TOPICS	8
cobaインタビュー	
○ INFORMATION	10



文化の

今年の「劇王」は面白かった。遊び心がベースにあり、その中で真剣な競い合いを繰り広げる、他に類のないこの企画が私は大好きで、毎回楽しませてもらっているが、今回はその劇王合戦も、ゲストを迎えてのトークも、例年以上に盛り上がったように思うのだ。



安住 恭子さん

まずはメインの合戦だが、これまでが比較的「出したい作家に出てもらう」式だったのに対し、今回は「昨年度の各戯曲賞王者が勢揃い！」ということで、岸田戯曲賞受賞者の佃典彦をはじめ、AAF、仙台劇のまち、かながわ、テアトロ、劇作家協会などの各戯曲賞の受賞者と、名古屋の注目株がそろっ

て出品したことによる。チラシがまかれ始めたころから、「今回はすごいらしい」という噂がじわじわと広がり、期待感が高まっていった。その十本が上演される第一日目の会場には、熱気と緊張感が漂っていたと思う。私もなんとなくドキドキして開演を待った。

そして、いくぶんのばらつきがあったものの意欲的な作品が並んで、実際に面白いタイトルマッチになった。その第一は、一般観客とゲスト審査員両方の圧倒的支持を集めて今回の「劇王」に選ばれた、柴幸男の「反復かつ連続」が現れたことだ。実に意表を衝く作品だった。一人の女優による、ある家庭の朝の風景である。それを、何も無い空間に、姉妹や母親など登場人物の一人ずつとして繰り返し現れ、同じシーンを反復して演じていくという手法で見せる。まるで一つ一つの色を塗り重ねて作る版画の演劇版といったらいいだろうか。それが重なって最後に全体像が見えて来たときの驚き。二十分という制限を最大限に生かしたその発想の妙に感嘆した。きわめて実験的でありながら、なんでも無い朝の風景が、とてもいとおしく美しく見えて涙が出るほどだった。小劇場演劇は、さまざまな実験や新しい試みを重ねてきて、もはや出し尽くされたように思えたが、まだまだやることがあるという演劇の可能性に、こ

家とかかわる劇作家たち

～ Jrライト級チャンピオンタイトルマッチ「劇王IV」から ～

の作品は気づかせてくれた。そして「劇王」という企画があったからこそ、この新しい演劇は生まれたわけで、誇っていいと思う。

私にとってはほかにも注目すべき作品がいくつかあった。例えば、仕事に行きたくない男女がそれぞれの不満や怒りを吐き散らす暴力的な言語がユニークな、スエヒロケイスケ作の「BLTキリングフィールド」。またそうした内面を言語化せず、緊張感ある濃密な空気として表現した、松田清志作の「かぼちゃ」などである。スエヒロ作品はもう少し磨きをかける必要があったと思うが、松田作品は地味ながら完成度の高い作品のように思えた。このほかにもさまざまなスタイルの作品が並んだが、特徴的だったのは、三作品に殺人シーンがあったのをはじめ、戦争、自殺、いがみあいなど、殺伐とした世相を映す作品が八割を占めたことだ。その意味で、同じような状況をどう見つめ、どう作品にするのかという作品同士が競い合う姿が一層鮮明になったし、観客にとっては見比べる面白さがこれまで以上にあったように思う。

私が司会をさせてもらった、三人の女性演出家によるゲストトークも充実していた。第一線で精力的に活躍する三人が、演出家の役割をどう考え、どんな作業をするのかを、

具体的に語って下さった。豊富な話題をユーモラスに披露する語り口のうまさもふくめて、演出家の姿を見せてもらったように思う。そして、その三人による率直な講評も有益だった。読みが深く辛辣だが温かい。そしてそれをきちんと伝える術もある。そこにも、全体を統括して作品を創り上げる演出家の姿があった。

こうした二日間を通して、最も私の心に残ったのは、劇作家や演劇人たちの演劇にける真摯な姿である。お祭りとはいえ、並べて上演され、それがたちまち観客や審査員による数字で評価されることは、かなり過酷なことにちがいない。それでもその過酷さに身をさらし、同時に他の作品からの刺激を受けて、さらに次に進もうとしている作家たち。彼らと共に作品作りに打ち込んだ俳優や演出家たち。みんな演劇が好きなんだなあとおつくづく思った。それは、一日目の終了後、百人余りの参加者で開かれた大打ち上げのそこここで、熱心に演劇について語り合っている姿を見てもあきらかだった。そして全体の司会を楽しく進めた杉本明朗=かっせん君にも拍手。たった二十分の短編を競い合うこのイベントに、日本劇作家協会東海支部のメンバーが実に真剣に取り組んでいる。「劇王」は、いい。

演劇評論家 安住 恭子



スペシャルトークライブ!! (左から 安住恭子、松本祐子、わかぎあひ、鈴木裕美) ※敬称略

熱い戦いが繰り広げられる中、作家のみなさんにききました。

- 1 文化の家の印象などについて
- 2 作品を書き始めたきっかけや、意識する作家は
- 3 長編短編の難しさや小説について
- 4 今の文化情勢について何か一言

トクドメ ヒサヨシ
徳留 久佳さん（劇団B級遊撃隊）



2 書きたいと思ってB級遊撃隊に入り、佃典彦さんに短いものを書いてみたらと言われたのがきっかけでした。周り全員がライバルですが、やはり自分でしょう。作品を仕上げる締め切りがあるので、それまでにきちんと書いて、自分の納得のいくものができるかというところが勝負ですから。

3 書き方が違いますね。長編は一つのアイデアだけでは書けないので、そこから色々発展させなければなりません。小説は書いたことがありません。

4 芝居は知り合いが出ていなければ来なかったり、敷居が高いと思っている人が多いので、単純にもっとテレビとかではなく、生の舞台を見る人口が増えるといいなと思っています。

スエヒロケイスケさん



2 僕は30歳過ぎてから書き始めたんですが、それまでは役者をしていましたが挫折して、一度芝居から離れました。しかし、知り合いがこの世界に多くいるので、それを観に行き、その内容がもっと面白くならないのかなと思っているうちに、自分で書くようになったのがきっかけです。てんぷくプロというのがあって、あそこは芝居をみんなで考えて台本を書いてまとめますが、それに2回ほど参加して、自分でも意外と書くことができることを発見したんですよ。それで自分で書いたら、自分で言うのも変ですが「これは面白い」と思ったんです。

意識する作家は、身近な存在で言えばやはり佃典彦さんですね。この人のおかげで作家としてデビューさせていただいたし、佃さんの作品の完成度は高いですね。あとは、そんなに僕は戯曲は読みません。どちらかというと小説ばかり読んでいますので、アイデアとかはそちらから浮かびますね。演劇の雑誌とかもあまり読まないです。

3 長編より短編を書くほうが断然難しいと思います。特に20分とかは、すごく絶妙な時間だと思うんですよ。長編を書くような気になって詰め込んでいけないし、詰め込むべき情報が

ぜんぜん違って、それはお客様の体調に反映されるんですよ。お客様がしんどいんです。特に1回のプログラムで5本をオムニバスでやるというのは、お客様はつらいと思います。つまらないものが一つ入っていると、本当に消耗するんです。長編の中だるみより大変だと思います。お客様の体感時間が20分なのに40分とか1時間に思ってしまう芝居をやってはいけないと思うし、20分なのに10分にも感じてはいけない。20分は20分でないといけないという、お客様の体感時間をすごく計算しないといけないですね。

4 東京や大阪とはお客様の質が違いますし、名古屋はハードはそろっているがソフトがそろっていないとよく言われています。ものづくりは一人一人の個人的作業ですから、本人が意識をどれだけ高められるかだと思います。色々地域でどうにかという動きもあります。バックアップしていただいたほうが絶対にいいに決まっていますが、ただ、作り手を甘やかさないといけないと思います。バックアップする側ももっとシビアになればいいと思います。

ヒサカワ ノリアキ
久川 徳明さん（劇団翔航群主宰）



2 うちの劇団はもともと女性団員が本を書いて僕が演出を行っていて、僕がその団員の書いたものに手を加えたりしていたのですが、ある日その子が劇団を辞めてしまったんです。それと自分が書きたいなというタイミングが重なったのです。必要とやる気が重なったところで書くことになりました。旗揚げ公演の台本も僕が書いたのですが、劇団員が6・7人のところで、登場人物が10何人も出てきて「上演不可能」ということになり、みんなで寄せ集めの台本一つにして旗揚げをしました。以来、演出だけを行ってきました。その後も演出をしながら芝居をしてきたんですが、そうするとどうしても脇役になるんですよ。自分が出るために自分で本を書いてみたくなり、自分が出すだけの本を書いてみました。大変でしたが無理ではありませんでした。

ライバルとして意識するような作家はいません。作風とか本の方向性みたいなのはぜんぜんないので、「この人のような作家になりたい」とかはありませんし、やりたいものがあるとしたら、芝居を観て感動してもらえるような作品を作れる作家になりたいです。

3 両方も難しく、長いものを書こうと思うとなかなか長くなくて、短いものを書こうと思うと長くなってしまい、狙って短くとか長くとかはできません。今回の劇王の20分は、大体のページ数で予想がつくので、とりあえず書いて、カットしていくという作業をしました。それでもどうしても20分という時間が半端になり、25分ぐらいになってしまうんです。なぜ20分なんですかね。

4 東海地区の文化について言うと、もっと戯曲を作るのに、作家、劇場、そのスタッフさんなどが協力的であってくれたらいいなと思います。この文化の家やアクテノン※は、スタッフ、職員の方がすごく協力的で、すごく前向きに色々動いてくれるし相談に乗ってくれます。「僕らの大変さを何でそんなにわかってくれるの？」というぐらい分かってくれるので本当に嬉しいんですが、全体を見ると、現場のことを分かってくれない人が非常に多いので、そういう人たちがもっと協力的になってくれたらいいなと思います。

※名古屋市演劇練習館アクテノン

カルマ
劉馬 カオスさん
(メガトン・ロマンチック主宰)



1 劇王 I に出たり、出演者としてとか裏方としてとかで5年目ぐらいになりますが、建物の中もすばらしく、中を歩いていてもわくわくするような構造になっていますね。渡り廊下もいいですね。劇場も、客として来たときも、使い手として来たときもそれぞれ使い勝手が良い、見やすいし使いやすいです。建物の構造もそうですが、劇場のスタッフの方たちがそれに負けないぐらいのパワーを発揮しているのだからちゃんと機能していると思います。そういった意味ではすごく理想的な劇場だと思います。

2 僕は高校の後輩の演劇部に練習用として書き下ろしたのが最初です。これは練習用だったので、部員たちのために上演しやすい一幕もので、笑いがあって、泣かせどころがあって、それぞれ一人ずつ長ゼリフがあって見せ場があって、というようなトレーニングのために書き下ろしたのなんですよ。それが何の拍子か上演されて、その場で佃さんに非常にほめられて、もうちょっと書き続けてみようかなと思って書いているうちに今になりました。

作家として意識しているのは、宮沢章夫さんです。一本書くたびに必ず一冊は手にとって勉強しながら書いています。最近では岩松了さんの言葉遣いを勉強しています。ライバルは、はっきりと「このひと」というのはないんですが、同年代の作家は気になります。名古屋だったら鹿目さんと東京でいったら、本谷有希子(劇団本谷有希子主宰)さん長塚圭史(阿佐ヶ谷スパイダース主宰)さんであるとか、大阪だと高校の同期で竹内佑(デス電所)という、この間OMS戯曲賞を取った人がいますが、彼は高校と一緒で芝居をやっていたので意識します。

3 僕は20分というのは短編では理想的な時間だと思います。集中して見ることができるし、また、どんなに短くてもいいです。長編だとすごく輝いているアイデアがなくても、シチュエーションとか人物で構成に厚みを持たせることが可能ですが、短編だと、見て1分か2分でアイデアなどをはっきりと提示しないとダメだというのがあります。

4 東京では最近、演劇というものは情操教育の一環として一般の保護者がワークショップとして演出家と呼んだりとかする動きが出てきています。しかし、まだまだこの地方ではそういった、演劇の可能性をあまり分かっていないというか、僕らもそれを伝えきれていないと思います。演劇をする、演劇を観る、演劇を支援するとかということが、ある種ステイタスみたいになって欲しいなと思います。あまり敷居を高くしても面白くないけど、演劇はすごく面白い芸術表現だと思います。色々面白い芝居がたくさんありますので、企業が音楽や絵画にお金を出すように演劇にももっと目を向けて欲しいと思います。そのためには僕らがきちんとしたソフトを作り上げなければならぬと思っています。

トヤマ ヒロタカ
渡山 博さん
(劇団イリスパンシブルティ)



2 自分たちで劇団を立ち上げようということになって、たまたま書くのに興味がありました。もともと小学生のころから小説家になりたかったんです。小説は書いたことが無かったんですが、戯曲って聞きなれない言葉ですが、やってみようかなと思いました。

意識している作家としては、作品をちゃんと見たこと無いんですが、スエヒロさんのブログを読んで、ちょっと自分と近いものがあるのかなと思いつつあります。

3 それぞれ難しいところが違いますが、短編は一つネタがあれば書けるかなという気になります。今回のような20分というのは自分の使っている原稿用紙何枚ぐらいかという感覚で、実際に役者さんにセリフなどをしゃべってもらって調整していきます。

4 稽古場がほしいですね。

ツクダ ノリヒコ
佃 典彦さん(劇団B級遊撃隊主宰)



2 書き始めたのは大学の演劇部で、書く人がいなくなって、じゃんけんで負けて書き始めました。書けるも何も、書かなきゃいけない状況になったので書きました。3時間ぐらいのもので長編になりました。

意識する人は作家ではありませんが、鐘下辰男君(演劇企画集団THE GAZO)です。彼は同い年ですと気になっています。何をやろうとしているのか、次の一手が気になります。

3 そんなに変わらないですね。ネタが思い浮かんだときにこれは短編だ、これは長編だと決めることはありません。公演が無いときにネタは思い浮かばないです。公演がなければ書きません。

4 愛知県にはAAFという長編の戯曲賞があります。ですから短編の戯曲賞があるといいですね。劇王は芝居を見て投票するものですが、いわゆる普通の戯曲賞。東海支部が劇王をやっている関係があって、こっちの地方で作れないかという話が出ています。一度熊本で劇作家協会が大会のときに短編戯曲賞を作りましたが、単発でしかありませんでした。



「太陽がすっぱい」作・演出 佃典彦(劇王IVより)

カノメ ユキ
鹿目 由紀さん
(劇団あおきりみかん主宰)



2 大学のときにちょっと軽く友達に頼まれて短編を書いたのが初めてです。そして、しばらくは役者をしていましたが、大学4年の冬に卒業公演で書きましたので割と遅い方です。

好きな作家は、永井愛さん(二兎社主宰)です。お会いしてどういう風にいるのかを聞いてみたいです。自分も女性の劇作家なので、あの方の作品の中にある女性の部分に惹かれます。

3 長編を書くときは、準備段階で色々な要素を組み込まなきゃ

いけないので、力が入ります。短編を書くときには、普段引き出しをどれくらい持っているのかということで、フットワークの軽さを短編に乗せられるかというのが楽しみだったりします。劇王の20分というのは、書くのはスラッと書けちゃいそうな気がしますが、自分が書いたものに、引っかけりを持てるようになるのかどうかというのが結構難しいです。

小説は小学校のときからずっと書いていました。戯曲を書くより小説を書く方が好きです。なぜかという、戯曲は書いたときに出来上がり、舞台でも出来上がり、2段階あります。人のかかわりが増えると、違う要素が入ったりします。小説は自分だけで、自分のエゴイスティックな部分すべて乗せられるので、楽しくてしょうがないです。

4 地方が魅力的であり続けることが必要だと思います。今名古屋にいますが、実際に住んでいたのは東北の会津若松なので、自分の地元で公演してみたいとすごく思います。そういう地方に、フットワークの軽さみたいなものがあると面白いと思います。ぱっと行って、ぱっと交流して。東京や大阪だけじゃない何かがあるんだよと表せると面白いですね。劇場のバックアップも必要だと思います。長久手は色々な人を呼んだり、劇王のようなイベントをやったりしているので、フットワークは軽いと思いますけど、名古屋市内でもこういうところが増えてもいいのですが、ちょっと腰が重いところがあるような気がします。せめて県内だけでも色々な交流があると面白いんじゃないかなと思います。

シバ ユキオ
第四代劇王 柴 幸男さん (劇団バームクーヘン)

2 高校時代に演劇部に入っていて、そのときに初めて書きました。

3 長編を書くときは、最初は1時間半も何を書くことがあるだろうかと思い、短編では短い時間で何が書けるだろうかと思ってしまいます。短編だと一つだけのアイデアで、それだけを鋭く突っ込んで行くというのが面白く、長編はアイデアの3つか4つ、その一つ一つが最後に重なり合って完成度を高めていくのが難しいです。

意識するような作家はいません。人と同じようなものを作るよりも、今までにないもののがんばって書こうと思っています。他の人と重ならないように頑張っています。



「反復かつ連続」作・演出 柴幸男 (劇王Ⅳより)

見るようにしています。特に地方は行政で文化事業を行っている方、役者、劇作家、お客さんが一つになって動いているなと感じます。東京は数が多すぎて一つになって力を発揮しようとする事ができません。劇王もそうですが、この地区で活躍する劇作家の人が集まって一つのイベントができることを羨ましく思います。

4 僕はまず仙台で戯曲賞を頂きました。また、今回の劇王に呼んで頂きました。大学が東京だったので、最初は東京、東京という意識がありましたが、ちょっとそういう見方が変わり、地方は地方で育っているの、最近では日本全国の情勢を

マツモト クニオ
松本 邦雄さん

2 僕はもともと映画を作っていました。その映画に劇団の座長に出演してもらっていた時に、「芝居書きいや、書きいや」と言われて、ある日映画とまったく違う一幕物を書いたら、初めて「面白い」と言われまして、それをテアトロ (演劇雑誌) に送ったら、テアトロ (戯曲賞) で佳作 (テアトロ新人戯曲賞) をもらいまして、それじゃ上演しようかと言ったのが2年前です。それ以来やっています。だから賞を獲ったからやっているという感じです。演劇が一番褒められます。映画より演劇のほうが「褒められる率」が高いということで調子に乗って書いています。



ほかの作家については、僕は元々演劇が好きだったわけではないのですが、野田秀樹さんが好きです。しかし最初からああいう美しい台本は書けないと分かっています。今まで自分と同じようにストレートに台本を書いている人に出会ったことがないので、あまり意識はしていません。きれいな言葉が書けてうらやましいと思うぐらいです。

3 別に区別はありません。書き方も変えていません。ただ、20分用に自分で書いて、自分で読んだら、20分だった台本が初めての読み合わせで、40分近くになり、だいが切るということはありますが、書き方はあまり意識していません。

4 僕は映画とかセリフの脚本の仕事で東京大阪を往復していた時期があります。やっぱり色々な面で東京が中心だと思いますが、僕は東京に出ずに、大阪にいたから今戯曲を書いているわけです。距離感があるから書けるというのもあり、距離感があるからなかなかにうまくいかないというのもあります。大阪人は東京が嫌いな人が多いけど、僕は東京がすごく好きで、できれば東京に行きたい (活動したい) ですけど住みたくないです。犬の散歩ができる所で暮らしたいです。できれば東京が持っているものをもっと広げて欲しいなと思います。まだそこまで文化という高いものまで見ていません。どちらかと言うと僕はすごく狭い世界からものを見ています。犬を連れて散歩できる範囲の世界から物を見て自分は書いていますが、自分の書いているものが文化の範囲には入れられないなと思っています。

スギモト アキオ
初代劇王 杉本 明朗さん
(アクションクラブ専務/中部代表)

1 以前からみなさんが明るいなという印象がありました。今もぜんぜん変わっていませんが、スタッフの方とかそれに関わって出入りしている方、またフレンズの方とか、本当に明るく生き生きしているという印象が強いです。いつ来てもきれいですから、足を運びやすいと思います。



2 僕はアクションをやっているんですが、既成の台本ではあまりアクションがないんです。芝居を見て「こんなのをやりたいな」と思うものはありますけど、自分たちがやれるものがなくて、アクションがあっても面白いものを書いて書くようになったのがきっかけですね。僕たちはアクションをやりたいんですよ。仕事抜きでも、見ていてアクションのある芝居が好きです。伝わってくるものも大きいのでアクションを入れたいです。僕はマキノノゾミさん (劇団M・O・P主宰) の本が大好きです。目標という大それたものではありませんが、とりあえず好きで、あんな本が書けたらいいないつも思っています。

3 劇王に関して言うと20分という枠があるので、それに関しては大変苦労しました。一回作ってみて稽古したら、どうしても20分を超えてしまうんですね。そこから削るのは難しかったですね。

4 名古屋は劇場や稽古場などが東京や大阪と比べると一番充実していると思います。それを埋める側、作り出す側が追いついていない、自分自身を含めてソフト作りの物足りなさを感じています。お客さんに劇場に足を運んでもらえるようなお芝居を作ることができていないなと感じています。面白いものをつくればお客さんはきっと来てくれると思います。決してお客さんは興味がないわけではないと思いますので、そこら辺をがんばらないといけないと常々思っています。

ヒラツカ ナオタカ
平塚 直隆さん

(ジ・オイスターズ主宰)

1 長久手との付き合いは長く、僕が来たのは2000年でしたから、この建物ができて間もない頃で、すごくきれいで居心地がよかったですね。今もきれいです。多分どこよりもいいと思います。交通アクセスさえ良ければもっといいと思います。



2 文化の家で行われていた、はせひろいちさん(ジャブジャブサーキット主宰)の戯曲セミナーに参加したのがきっかけでした。だから前にもコメントしたことがありますが、長久手は僕を何とかしなければならぬ責任があります。

意識する作家は、最初は北村想さんから始めて、はせさん・佃さんときて、身近な人はとりあえず影響を受けます。そのときの気分によって結構左右されてしまいます。今まで影響を受けてきた人はもちろん好きだし、今は後藤ひろひとさん(piper)です。笑いのテイストが入った人が気になりますね。

3 短編は勢いと歯切れのよさを重視しています。一つのアイデアでいけるので、僕は短編はそんなに難しいとは思っていません。例えば一つのこのセリフが言いたいとかのイメージだけで行けてしまいます。しかし長編はそれだといけません。それが膨らんで、あと2個ぐらいないと長編はできないので難しいです。ワンアイデアで短編みたいに書いてしまうと、伸びてしまいます。今回のような20分枠については、自分の書く枚数で分かっているので、そんなに難しくありません。5分でも大丈夫です。

4 制作を上手にできる人がいるといいなと思います。東京や大阪には人気劇団があって、その人はもの凄いい力を持っていて、バリバリ働いてもの凄く動いてそのままマネージメント会社まで持って行ってしまいます。この地区にはテレビ、ラジオなどのメディアと直結している人がいないので今ひとつ盛り上がり欠けるような気がします。

シナガワ ヒロユキ
第二・三代劇王 品川 浩幸さん
(劇団シアターガッツ主宰)

1 客席と舞台の距離感がとても良い劇場だなと思いました。気に入りました。



2 本格的に書き始めたのは29歳で、劇団旗揚げのときでしたが、他に書く人が僕しかいなかったの、やむにやまれず書くことになりました。

尊敬する作家は、鈴木聡さん(ラッパ屋)と土田英生(MONO)さんです。

3 短編はラストの切れ味みたいなものを大事にしています。書く苦労というのは長編だろうが短編だろうが変わりません。

4 賢沢かも知れませんが、演劇というものを理解していただくこと、稽古場はもちろん、作業場が欲しいです。早稲田大学の学生会館には、録音室や防音室、ちょっとしたスタジオなど、サークルのためのいろいろな場所があり、そのうちの一つに作業場があり、各劇団が共有している。そこまで大学がお膳立てするから、甘やかされてしまいます。でも、演劇人の欲しい物がそこにあります。



「タイ焼き」作・演出 品川浩幸(劇王Vより)

劇場もいいですが、それは本番の2、3日のこと。芝居をつくる、創造する物理的場所を支援していただけると、芝居作りだけに専念できます。今は、場所探しだけで大変なんです。もっと芝居の創造に力を注ぎたいです。なかなか公民館では作業が出来ないので、今は好意で運送屋の倉庫を借りています。

はせひろいちさん

(劇団ジャブジャブサーキット代表)

1 最初は戯曲講座とかセミナーでした。こういった講座がまだ目新しい時期に声をかけていただいて、やって見ましょうということで始めました。当時は長久手に文化人を呼べたらいいね、というような時期から始めたことを覚えています。そして、セミナーの後で演劇王国という名前が付いて「バクスター氏の実験」という公演をやらせていただきました。



2 ももとは演劇に関心がなかったんですが、浪人した頃に出会った友人と演劇でもやろうという話になって、「書くことが好きそうだから、お前書け」と言われ、初めて書きました。その頃から色々な芝居を観たり、書いたりしましたが、演劇だから許されていることや、芝居のための常識や作法が嫌で、もっとリアリティを感じられるものが出来るはずだと思い書き続け、模索し続けて、やっと自信を持てるようになったのが、書き始めて10年ぐらい過ぎてからです。

意識する作家はいませんが、「〇〇を書いた時のあの人」とか「あの人が書いた〇〇」というのはあります。例えば「上海パンスキング」を書いた時の斎藤憐さん、「笑いの大学」を書いた時の三谷幸喜さんという言い方はできますが、ずっとその人の作品が好きということではありません。その作品を書いたその人の精神、世界観とかを意識することはありますが、「この人が目標だ」という人はいません。

3 劇王の前からお付き合いをしていますが、その頃は短編の連続上演をしました。だから短編はやはり好きで、小説も短編が好きです。もちろん長編のようなダイナミックなドラマ作りはありませんが、時代はスピーディーで、20分、30分で1話が終わればいいと思うことがあります。テレビでサスペンスを観ても、映画を観ても30分ぐらいカットできると思ってしまいます。そのスピーディーさを人類は求めているんじゃないかと感じます。そういう意味では短編で名作を目指したほうが演劇にとっては良いと思う時があります。

4 今日みたいに、ちゃんと文化の家が、公演にお金を掛けるという事が減ってきているような気がします。ちょっとしたワークショップやドラマリーディングなど、回数は増えていますが、一つの公演を丸ごとサポートしていくことが減っているという感覚があります。やっぱり本公演をここの小屋で一月、二月と時間を掛けて作り上げていくことが、実は劇団にとっても会館にとっても豊かになれると思います。そういう関係があればいいなと思います。



3月11日（日）、高校時代を長久手で過ごしたcobaが久しぶりに帰ってきました。ヨーロッパ各地で絶賛された、躍動感ある演奏が観客で満員に膨れ上がる森のホールで披露されました。演奏の合間には、若き日に自転車で町内を走り回ったことや一人で町内で下宿生活をしたことなど、ここ「長久手」でのコンサートならではの思い出を懐かしそうに話してくれました。

Q 世界各地で演奏活動していらっしゃるcobaさんですが、お客さんの反応や雰囲気の違いはありますか

A それぞれの地域にお住まいの方々が、それぞれの反応をしますし、世代ごとの反応も全部違いますので、非常に地域色があって良いことだなと思います。

Q 日本と外国の違いを何か感じますか

A やはり言葉が違うわけですから、表現の仕方がヨーロッパでもイタリア人、フランス人、イギリス人ではまったく違います。去年のヨーロッパツアーでは、イタリア、南フランスからパリ、ベルギー、イギリスという行程を組みました。やはり箱（ホール）によっても随分お客さんのタイプが違って、地方色や民族色が豊かでとても楽しいです。

Q 気候とか地形などいろんな状態があると思いますが、それによって楽器の響きに影響が出ることはありますか

A あります。やっぱりイタリアの中でも、ウンブリア地方からヴェネト地方と言いまして、僕の行った学校のあたり、ウンブリアからヴェネツィアのゾーンと言うのは非常に霧が深く、冬に湿気が多いんです。学校に通うのに最初の2年間は自転車で、そのあと友人

から中古で譲ってもらったバイクで10キロ以上の道のりを通ったんです。着く頃には体がびしょびしょになっている、それぐらい霧が深い。そういう所だとやっぱり楽器の鳴りは良くありません。アコーディオンというのは乾燥したところで演奏するのが基本です。



Q アコーディオンの魅力とは

A 楽器として非常に表現力が豊かであり、ポテンシャルの高い楽器だと感じています。ある意味、人間の体に似ていて、楽器についている蛇腹は、人間で言えば肺にあたり、それが呼吸しながらリードという声帯を震わせて、文字通り空気を振動させ、音を発音します。そのアコーディオンを抱えて、いわゆる自分の分身みたいな存在になるわけで、ある意味、自分自身が非常に露骨に現れてしまう楽器でもあります。演奏家それぞれのキャラクターが酷なまでに出てしまうということです。どんな楽器もそうですが、特にアコーディオンは、体に密着させる面積がおそらく数ある楽器の中でも最も広い楽器だと思います。だからどの楽器よりも魂がそのまま伝わってアコーディオンを歌わせるという気がします。

Q 振り返ってみて、長久手高校時代の学校生活は今に影響を与えていますか

A すごく影響しています。中学校2年生のときに新潟から転校してきて、新潟では成績がいい方で、生徒会長をやったりしていました。引っ越してきて、僕自身、積極的に部活とか生徒会活動に参加する子どもでした。ただ、教科によっては教科書がまったく違ったり、教科書は同じでも教え方がぜんぜん違って、補習を受けたりしましたが、中間テストでは分からないことばかりで、急に成績が下がってしまってすごくショックでした。そんな頃に庄司薫さん（ピアニストの中村紘子さんのご主人）の小説に出会い、影響を受けました。彼が丁度、中央公論賞や芥川賞をお取りになって、その芥川賞のきっかけになったのが、審査で強力に庄司さんを推した三島由紀夫さんでした。その彼を通して僕は三島さんにどんどん傾倒して行き、随分小説を読ませていただいて、あからさまに表現しない美学みたいな細かい心の動きなど、三島さん独特の描写にすごく影響を受けました。

高校に入ってから一切生徒会活動のようなものをやめて、随分考え方が変わって、そんな時に両親がまた転勤になるんです。高校1年生で入学してちょうど1年たった頃に、父に辞令が下りて次は札幌だと。大学は受験するつもりでいましたから、中学のときのような同じ目に遭うのはいやだということで、僕は一人で下宿をしました。長久手高校のすぐ近くの愛知医科大学の周りに大学生たちの寮・下宿みたいなのところがたくさんあって、その中のひとつに下宿したんです。あの大学の学生さんは変り種が随分おられて、当時僕は16・7歳の頃でしたので、そういう人たちにも影響を受けました。

Q そのころから、音楽をやっていたらっしゃったんですか

A バンド活動などやっていました。

Q 中学、高校ではどんな音楽を聴いていましたか

A 中学は、ビートルズですね。それからあとはすぐにプログレッシブ・ロック※1を聴きました。

coba情報

cobaオフィシャルHP
<http://www.jvcmusic.co.jp/coba/>

cobaオフィシャルブログ
<http://blog.eplus.co.jp/coba/>

リリース情報

- 最新アルバム「Boy」
- ライブDVD「coba groovy accordion night tour in 2006 in Eupore」
- ビクターエンターテインメントより発売中

Q 部活は何かやっていたんですか

A バレーボールをやっていたんですが、アコーディオンを本格的にやろうということになって、指の為にリスクがありすぎたので、途中から帰宅クラブになって、留学準備とともに音楽と語学の研修に励みました。

Q 今現在の夢や目標は

A 夢はたくさんあります。そもそもアコーディオンと言う楽器のイメージを変えたいという志を抱いて留学し、その根源的なところまで立ち返って、アコーディオンという楽器がどういう楽器なのかを本当に見て、その楽器が作られた場所に行き、そこの人々と話しをしてみたかった。そのきっかけがイタリアだったんですが、今回一つ賞※2を頂きまして、これは世界のリード楽器演奏家のビッグネームに与えられる賞で、今までの受賞者の中では、僕は非常に若い方なんです。それを一つの励みとして、少年の心にもう一度戻って、プログレッシブ・ロックが大好きで、いくつもバンドをかけもちした、音楽が好きでしょうがないあの頃の時代に戻って、再スタートを切ろうというような心境になりました。そして今回のニューアルバムは「Boy」というタイトルにしました。僕の音楽は聴いていただければ分かると思いますが、直接的ではないにせよ、かなりプログレッシブ・ロックの影響を受けている筈です。

Q チケット販売時に、過去最長の行列が出来ました。同級生の方とか並んで見えましたが、何か一言メッセージをいただけますか

A 懐かしいです。中学校の同級会は去年やったんですが、高校は3年生で休学しましたので、なかなか会えないんですよ。だから是非お会いしたいし、同級生には特に会いたい人がたくさんいます。

※1 プログレッシブ・ロック 1970年前半にイギリスに現れた、先進的、前衛的なロック。もともとロックバンドは、ギター、ボーカルが脚光を浴びることが多かったが、このジャンルの音楽はどのバンドでも、独自のサウンド（シンセサイザー等を利用）であるとか、キーボード奏者が脚光を浴びることの多いジャンルでした。代表するバンドとしては、イエス、エマーソン・レイク&パーマー、ピンクフロイドなどが挙げられる。

※2 ヴォーチェ・ドーロ（金のリード賞）という、リード楽器演奏家として最高の栄誉と言われる賞で、cobaさんは昨年10月に受賞しました。

後日談

実は私（インタビュアー）はcobaさんと1歳違いで同じ長久手高校に通っていました。インタビュー終了後にcobaさんから共通の音楽の先生の名前が出て「よろしくお伝えください」と言われ、町内在住の先生に早速連絡を取ったところ「高校2年のキャンプで木曾御岳に行ったときに、彼はアコーディオンを担いでやってきて、キャンプファイヤーのときに弾いてくれた。あんな重いもんよく持ってきたなー。」とか「色々迷っていた時期もあったみたいだよ。」などと懐かしそうに話していただけました。

事業のご案内

長久手町・ワテルロー市姉妹提携15周年記念事業
トリオ・カルロ・ヴァン・ネスト

- 【と き】 5月17日(木) 午後7時から
【と ころ】 森のホール
【出 演】 セバスチャン・リナエール(ピアノ)、ノエ・乾(ヴァイオリン)、アレクサンドル・デュブリュ(チェロ)
【入 場 料】 前売 一般:2,000円、フレンズ:1,800円 学生:1,000円
当日 一般・フレンズ:2,500円、学生:1,500円(全席自由)
※未就学児の入場不可

〈関連企画〉

★親子のための交流コンサート

- 【と き】 5月16日(水) 午前11時から
【と ころ】 風のホール
【出 演】 トリオ・カルロ・ヴァン・ネスト
【入 場 料】 親子券:1,000円 1席追加につき300円

提携事業

長久手フィルハーモニー管弦楽団 第9回定期演奏会

- 【と き】 5月27日(日) 午後2時30分から
【と ころ】 森のホール
【曲 目】 ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」、リスト/交響詩「前奏曲」、ワーグナー/タンホイザー序曲
【指揮者】 長田雅人
【入 場 料】 前売 一般:800円、フレンズ:700円
当日 1,000円
※未就学児の入場不可

事業倶楽部事業

ハープ&ピアノ ピアノと共に

- 【と き】 6月3日(日) 午後3時から
【と ころ】 森のホール
【入 場 料】 前売 一般:1,000円、フレンズ:800円、学生:500円
当日 一般・フレンズ:1,500円、学生:500円
※未就学児の入場無料(要整理券)

提携事業

トリオ・シュパンツィヒ

- 【と き】 6月22日(金) 午後7時から(※アフタートークあり)
【と ころ】 風のホール
【出 演】 中川さと子(ヴァイオリン)、松崎安里子(チェロ)、山下 勝(ピアノ)
【曲 目】 中村滋延:ピアノ三重奏曲「ターニング・ポイント」、ドヴォルザーク:ピアノ三重奏曲「ドゥムキー」ほか
【入 場 料】 一 般:2,500円、
フレンズ:2,200円、
学 生:1,500円、
当日学生のみ:1,800円
(全自由席)
※小学生以上入場可



提携事業

新しい波2007～エルガー旋風

生のクラシックが、こんなに熱く、おもしろい!地元新進アーティストによるエネルギー120%のライブをお楽しみください!

- 【と き】 7月1日(日) 午後3時から
【と ころ】 森のホール
【出 演】 平光真彌(ヴァイオリン)、鈴木崇洋(ヴァイオリン)、新谷 歌(ヴィオラ)、山際奈津香(チェロ)、菅原拓馬(ピアノ)
【曲 目】 エルガー:ピアノ五重奏曲、シェーンベルク:鉄の旅団ほか
【入 場 料】 前売 一般:1,500円、フレンズ:1,200円、学生:500円、
当日 一般・フレンズ:1,800円、学生:800円(全自由席)
※小学生以上入場可



ザ・チーフタンズ 来日公演2007 林 英哲(ゲスト)

長久手町文化の家開館9周年記念 日本・アイルランド外交樹立50周年記念

- 【と き】 6月7日(木) 午後7時から
【と ころ】 森のホール
【入 場 料】 前売 一 般:5,000円
フレンズ:4,500円
学 生:2,500円
当日 一 般・フレンズ:5,500円
学 生:3,000円
(全指席)
※未就学児の入場不可
【出 演】 ザ・チーフタンズ、林英哲ほか



ザ・チーフタンズ



林 英哲(ゲスト)
撮影/百瀬恒彦

関連企画 映画

5月12日(土) 「麦の穂をゆらす風」

(2006年アイルランド・イギリス・ドイツ・イタリア・スペイン)126分

- 【出 演】 キリアン・マーフィー、ボードリック・ディレーニーほか
【会 場】 風のホール
【上映時間】 第1回 午前10時から
第2回 午後2時30分から
【入 場 料】 500円

(小学生から入場券が必要になります。小さなお子様でもお席をご利用の場合は入場券が必要です。)

関連企画 トークイベント

ケルト文化に関する書物を数多く執筆する武部氏の臨場感溢れる「ケルト紀行トーク」!

- 【と き】 5月12日(土) 午後1時から(60分程度)
【講 師】 武部好伸
【入 場 料】 300円(定員250人)

◆チケット購入方法◆

- 文化の家チケット専用電話
- 長久手町サービスコーナー(Nピア)(アピタ長久手店2階)
- チケットぴあ

公演チケットは、文化の家、アピタ長久手店2階長久手町サービスコーナー(Nピア)、チケットぴあでお買い求めいただけます。

- 0561-61-2888
0561-63-9200
0570-02-9999

- ※ 前売り完売の場合、当日券は販売いたしません。
- ※ フレンズ価格での販売は前売りのみです。
- ※ 出演者などは都合により変更になる場合があります。
- ※ 未定部分につきましては、広報長久手または各事業のチラシにてご確認ください。

募集!

平成19年度「文化の家事業倶楽部事業」募集

文化の家のサポートを受けながら、アーティストを招へいしませんか?

審査方法 事業の実施決定には、関係委員会の審査があります。

応募方法 文化の家にある申込用紙に必要事項を記入し、提出してください。

※事業内容はプロなどの公演とし、自らが所属する団体・個人の公演は対象としません。

劇団うりんこ「パイレーツ・オブ・花山田小学校」(作・演出 佃 典彦) 出演者募集

- 公演日/8月19日(日)午後3時から
- 稽古日/7月中旬から10回程度の稽古を予定
- ところ/森のホール
- 対象/高校生以上(10人)
- 募集期間/5月2日(水)から6月15日(金)

チーフタンズ公演関連企画 アイリッシュダンス講座受講生募集

- と き/5月19日(土)午後2時から
- ところ/風のホール ステージ
- 講師/三好里沙
- 対象/小学生以上(どなたでも簡単にできるステップです)
- 受講料/300円(定員30人)
- 持ち物/動きやすい服、上履き(バレエシューズ可)

文化の家音楽デリバリー 音楽のおとどけもの

- 対象/原則20人以上のグループで乳幼児を抱えた人、高齢者、療養中の人などホールに出かけることができない人(町内に限る)。
- と き/毎月第2水曜日の午前10時から40分程度(都合により開催できない日もあります)
- ところ/施設や集会所などみんなが集まることのできる場所。屋外不可。
- 費用/福祉系・教育系であれば原則無料。ただし会場、ピアノ調律、準備などにかかる費用は申込者が負担。
- 申込方法/デリバリーを希望する月の2ヵ月前の第3水曜日までに事務室にある申込用紙に必要事項を記入し、申し込んでください。申込者多数の場合は抽選。

平成19年度フレンズ会員募集

平成19年度文化の家フレンズの会員を下記のとおり募集しています。

●会費●

個人会員	年額1,500円 (ただし、10月1日以降に入金の場合は1,000円)
家族会員 (個人会員と住所を同じくする人)	年額1,000円 (ただし、機関紙・事業案内などの郵送は省略させていただきます)
法人・グループ会員	年額15,000円 (ただし、10月1日以降に入金の場合は10,000円)
※会員の有効期限は、4月1日から翌年の3月31日までです	
※年度の途中で入金する場合は、入会日から最初に訪れる3月31日までになります	

●特典●

1	文化の家自主事業チケットの割引 (10%程度割引、会員1人につきチケット2枚まで、法人・グループ会員は20枚まで)
2	文化の家自主事業公演チケットの先行発売
3	機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
4	フレンズが行う文化事業、交流事業への参加

【申込方法】 文化の家事務室にて、所定の用紙に住所、氏名、電話番号を記入の上、年会費を添えてお申し込みください。

フレンズスタッフ募集中

フレンズスタッフを、常時募集しています。フレンズスタッフはホールスタッフなど、文化の家のサポートする活動や、フレンズが行う交流・研修などの催しに参加していただけます。

編集後記



1月から3月にかけてのホール系の自主事業は12回、そのうちの5事業7公演は演劇系で、文化の家の新春は演劇ファンで賑わいました。1月末の2日間は恒例の「劇王IV」、2月に入ってベンガルさんと岡田義徳さんが出演した「カラフト伯父さん」、そして安寿ミラ、斎藤晴彦さんらによる「ハムレット」、3月はじめには劇団MONO、と著名な出演者や劇団の公演が続きました。町劇団「座★NAGAKUTE」の第15回公演はこの合間の2月末、こうしたプロ劇団の公演に並ぶようにして2回の公演を行いました。プロの劇団と同じ森のホールを使い、同じように多数の観客を集めていました。

前年度には子どもたちも対象のミュージカルに挑戦した町劇団でしたが、今回は《昼ドラ》のような人間関係の渦をテーマに、これを明るくタッチで演じて「時間が短く感じた。迫力があって面白かった」などのう

れしいアンケート評を多数いただきました。

いつも公演後のロビーでお願いしているこのアンケートには「ご意見、ご感想をお聞かせください」との自由記入欄のほかに当公演を4段階で採点していただく評価項目が設けてあります。因みに町劇団のこの公演の評価は38%の方が「とてもよかった」、48%の方が「よかった」、8%の方が「ふつう」、そして4%の方が「いまいち」とされ、創立9年目の町劇団はかなり高い評価をいただくようになりました。

前年度の愛・地球博を機に開催した「日本劇作家大会」や恒例の「長久手演劇王国」「地域演劇祭」など、文化の家の演劇はこうした積極的な活動で全国的に知られるようになりましたが、この間に町劇団はしっかりと力をつけ、熱心なファンも随分増えてこの地に演劇は着実に根付いているように感じます。

文化の家館長 川上 實

事業のご案内

5月 May

3日(木・祝)・4日(金・祝)

演劇博覧会 カラフル2

●午前10時から(3日) 午前11時から(4日) 森のホール・風のホール

12日(土)

映像鑑賞会 「麦の穂をゆらす風」

●①午前10時から ②午後2時30分から 風のホール

17日(木)

長久手町・ワテールロー市姉妹都市提携15周年記念事業

トリオ・カルロ・ヴァン・ネスト

●午後7時から 森のホール
16日(水)親子のための交流コンサート
午前11時から 風のホール

27日(日)

長久手フィルハーモニー管弦楽団第9回定期演奏会

●午後2時30分から 森のホール

6月 June

3日(日)

事業倶楽部事業「ハーブ&ピアノ ピアノと共に」

●午後3時から 森のホール

7日(木)

長久手町文化の家開館9周年記念

日本・アイルランド外交関係樹立50周年記念

ザ・チーフタンズ来日公演 2007

●午後7時から 森のホール

10日(日)

映像鑑賞会 「ウエスト・サイド物語」

●①午前10時から ②午後2時30分から 光のホール

22日(金)

提携事業 トリオ・シュパンツィヒ

●午後7時から 風のホール

7月 July

1日(日)

提携事業 新しい波・2007～「エルガー旋風」

●午後3時から 森のホール

8日(日)

第4回長久手オペラ声楽コンクール受賞者記念演奏会

●午後3時から 森のホール

29日(日)

長久手子ども音楽劇場「おんぱく」～音のテーマパーク

●午前10時から午後5時ごろまで 文化の家全館

8月 August

19日(日)

劇団うりんこ 「パイレーツ・オブ・花山田小学校」

●午後3時から 森のホール

25日(土)宝くじ文化公演

金沢市民芸術村 文学座ユニット 「お～い幾多郎」

●午後3時から 風のホール
出演：瀬戸口都、本山可久子ほか

9月 September

2日(日)

こまつ座 第84回公演 「円生と志ん生」

●午後2時から 森のホール
作：井上ひさし 出演：角野卓造 辻萬長ほか

9日(日)

提携事業 「大藪祐歌ピアノリサイタル(仮)」

●時間未定 森のホール

23日(日)

提携事業 「室内楽の楽しみ」

●午後3時から 森のホール

10月 October

20日(土)

宮川彬良&アンサンブル・ベガ

●時間未定 森のホール

11月 November

11日(日)

長久手オペラvol.17 レハール:オペレッタ「ほほえみの国」

●午後3時から 森のホール

24日(土)

南河内万歳一座公演(作品未定)

●時間未定 風のホール

25日(日)

提携事業 長久手フィルハーモニー管弦楽団演奏会

●時間未定 森のホール

12月 December

8日(土)・9日(日)

提携事業 愛知県立芸術大学大学院オペラ「ドン・ジョヴァンニ」Don Giovanni(原語上演)

●時間未定 森のホール

長久手町文化の家

〒480-1131

愛知県愛知郡長久手町大字長湫字野田農94番地1

お問合せ=tel.0561-61-3411/fax.0561-61-2510 チケット専用=tel.0561-61-2888

http://www.bunka.nagakute.aichi.jp

休館日 = 月曜日(祝祭日の場合は翌日)および年末年始

開館時間 = 午前9時～午後10時

交通アクセス

- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、「リニモ」はなみずき通駅下車、徒歩7分
- 地下鉄東山線藤が丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、名鉄バス5番乗り場、長久手郵便局下車、徒歩8分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、N-バス [Cルート]長久手郵便局下車、徒歩8分
[Fルート]文化の家下車、すぐ
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車、徒歩5分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分

